

浅茅ヶ原・荒池園地
実施計画（案）

目 次

本計画の検討範囲・・・・・・・・・・3

1. 上位計画と課題整理

- (1) 植栽計画の概要・・・・・・・・・・5
- (2) 課題整理・・・・・・・・・・11

2. 主要課題の検討

- (1) スギの多齡林化の検討・・・・・・・・14
- (2) 眺望改善の検討・・・・・・・・18
 - 1) 鷺池の眺望・・・・・・・・19
 - 2) 円窓亭跡地の眺望・・・・・・・・25
- (3) 花木の生育改善の検討・・・・・・・・28
 - 1) 日照改善の検討・・・・・・・・29
 - 2) ウメの生育環境改善の検討・・34

3. 整備方針

- 計画目標（植栽計画を再掲）・・・41
- (1) 旧境内ゾーン・・・・・・・・42
- (2) 園地ゾーン・・・・・・・・44

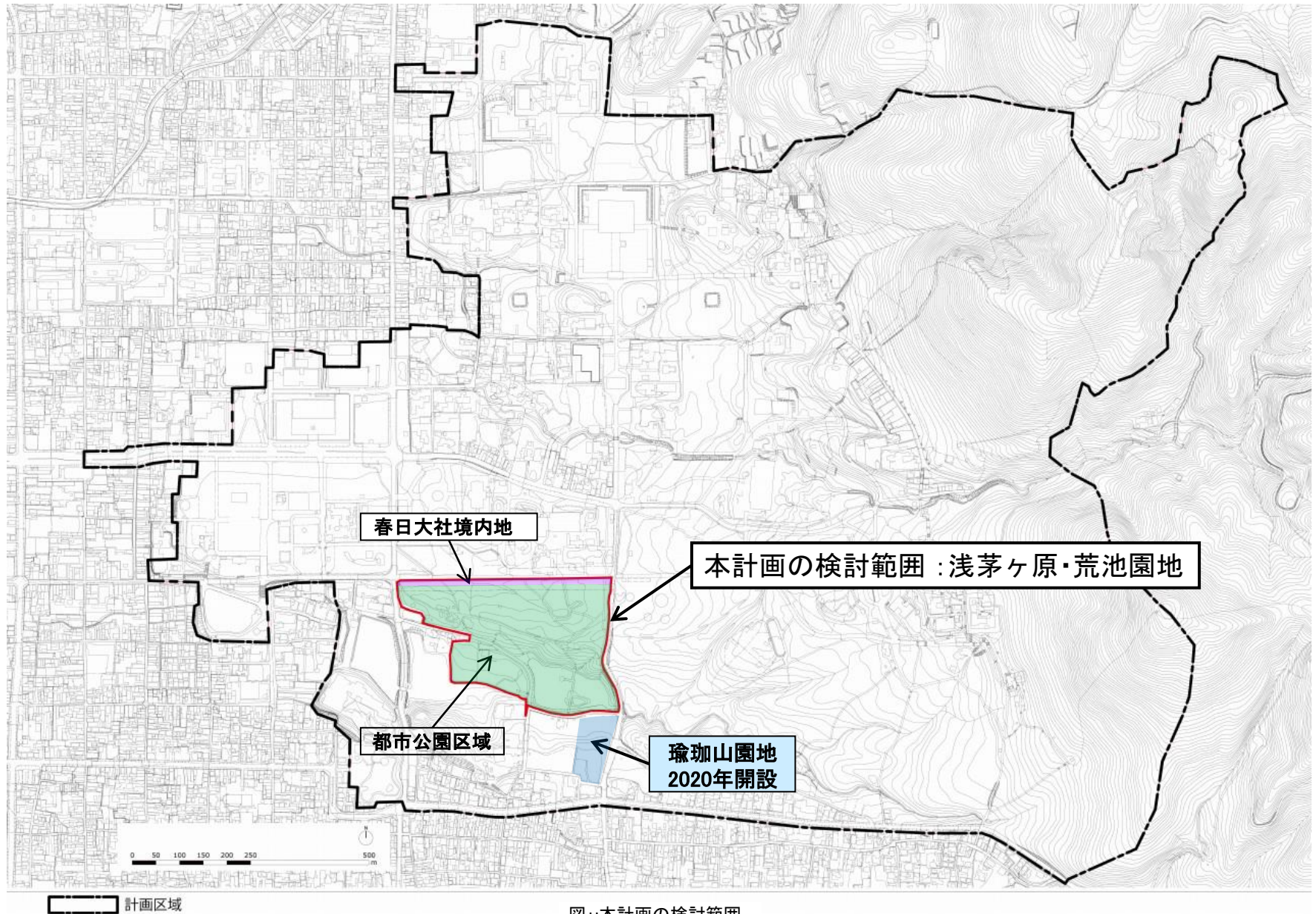
4. 整備計画

- (1) 整備概要・・・・・・・・・・53
- (2) 整備順序・・・・・・・・・・58

修正・追加した頁

・スギの多齡林化について	15頁
・円窓亭跡地の眺望改善	26-27頁
・花木の日照改善の検討	29-31頁
・ウメの生育環境改善の検討	34-39頁
・山地への眺望改善	49頁
・整備概要	55,57頁
・整備順序	59頁

本計画の検討範囲



図：本計画の検討範囲

1. 上位計画と課題整理

第17回奈良公園植栽計画検討委員会で審議された植栽計画（案）に基づき、上位計画の概要と実施計画の計画課題を整理する。

(1) 植栽計画の概要－基本的な考え方

「計画対象地を特徴づける植栽・景観を保全・継承する。」

●二つのゾーンの特徴を保全・継承する。

計画対象地には、旧境内ゾーンと園地ゾーンがあり、それぞれのゾーンを特徴づける植栽・景観を保全・継承する。

旧境内ゾーンの特徴

- ・春日大社の旧境内地の植生・景観を継承している。
- ・春日大社と一体となり、参道景観を形成している。
- ・イチイガシとスギの巨樹を含む大径木の樹林がある。

園地ゾーンの特徴

- ・尾根地形を活かした多彩な花木が見られる。
- ・池周辺や芝地の拡がりと花木が見られる。
- ・御蓋山、高円山、奈良ホテル等に向けた眺望景観がある。
- ・樹林地に佇む料理旅館群の独特の景観がある。
- ・率川の自然な植栽・景観と連続性・一体性がある。

●景観や利用の連続性や一体性に配慮する

計画対象地と周辺地は、景観や利用の連続性や一体性があり、これが特徴となっている。上述したゾーンの特徴を保全・継承しつつ、これらの連続性や一体性に配慮する。

※ナラ枯れ：カシノナガキクイムシが病原菌を運び込むことよって引き起こされるナラ類やシイ・カシ類の樹木の伝染病。

旧境内ゾーン：「将来の植栽の変化に備えた対応を行う。」

●更なる生長と世代交代への対応（多齡林化・巨樹育成）

スギとイチイガシの樹林は良好に生長し、大径木を多数有している。今後更なる生長が想定されるが、単齡に近い樹林のため、将来訪れる世代交代に備えて、時間を掛けて多齡林化を進める。また、スギやイチイガシの巨樹の育成のため、これを目標とした管理を行う。

●マツ材線虫病やナラ枯れに備えた樹林づくり

マツ材線虫病やナラ枯れ[※]は、大径木化や被害樹種の優占率の高さが誘因の一つと考えられることから、樹齡や樹種の多様化を図り、被害の防除、軽減に努める。

園地ゾーン：「健全な生育と魅力維持を図る。」

●眺望や景観の開放感に配慮した植栽管理

- ・鷺池や円窓亭付近の眺望点から若草山、春日山、御蓋山、高円山への眺望と、景観の開放感や明るさに配慮した植栽管理を行う。

●花木の生育環境の改善

- ・花木の日照条件や水分条件の改善を図るため、花木と高木の植栽範囲を見直し、良好な生育環境を整える。
- ・花木の健全な生長や演出効果に配慮して、植栽密度の見直しを行う。

●花木類の樹種・品種の見直し

- ・ナラノヤエザクラなど虚弱品種の衰退が著しいことから、長寿の原種のサクラ類(エドヒガン、カスミザクラ等)や強健な品種(ソメイヨシノ等)への植替を行う。
- ・ナラノヤエザクラなどの虚弱品種は、荒池園地の芝地など良好な生育・管理条件が整ったところに限る。

●建築物周辺の配植の見直し

- ・料理旅館周辺の植栽は、景観、施設利用、管理等の諸条件に適した植栽となるように見直す。
- ・円窓亭附近は、移設後の状況にふさわしい植栽に見直す。

●特徴的樹種の補植

- ・アカマツ、イヌシデ、アセビなど、ゾーンを特徴づける樹種で減少しているものは、適地を選定して補植する。

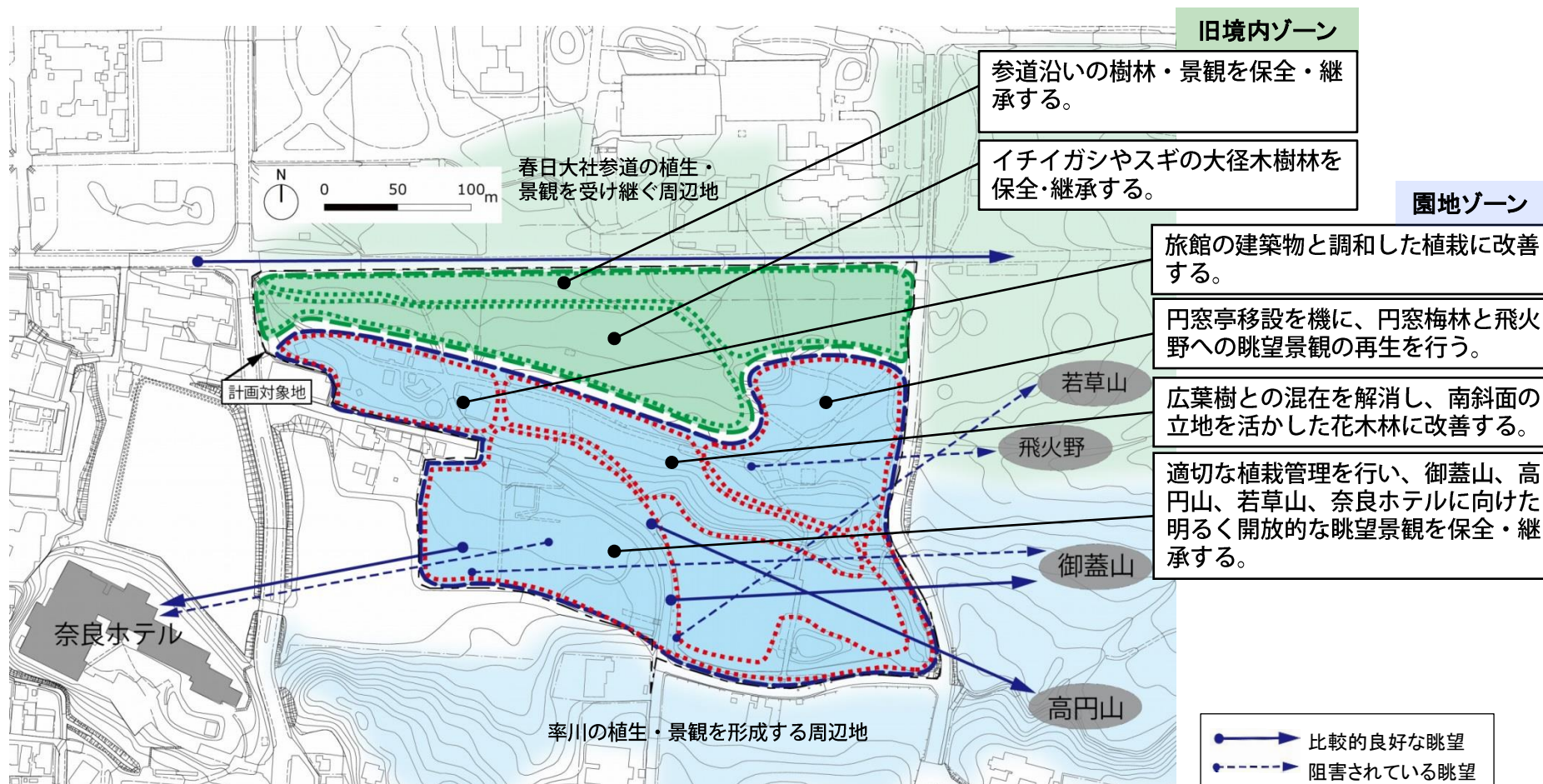
1. 上位計画と課題整理

(1) 植栽計画の概要－計画方針

第17回奈良公園植栽計画検討委員会資料より抽出

計画方針：旧境内地と園地の特徴を活かした植栽・景観を保全・継承する。

- ・旧境内ゾーンは、公園開設以前の春日大社旧境内から受け継いできた植栽や景観を保全・継承する。
- ・園地ゾーンは、園地の魅力である梅林や鷺池一帯の花木林と、山地等への眺望景観を保存・継承する。

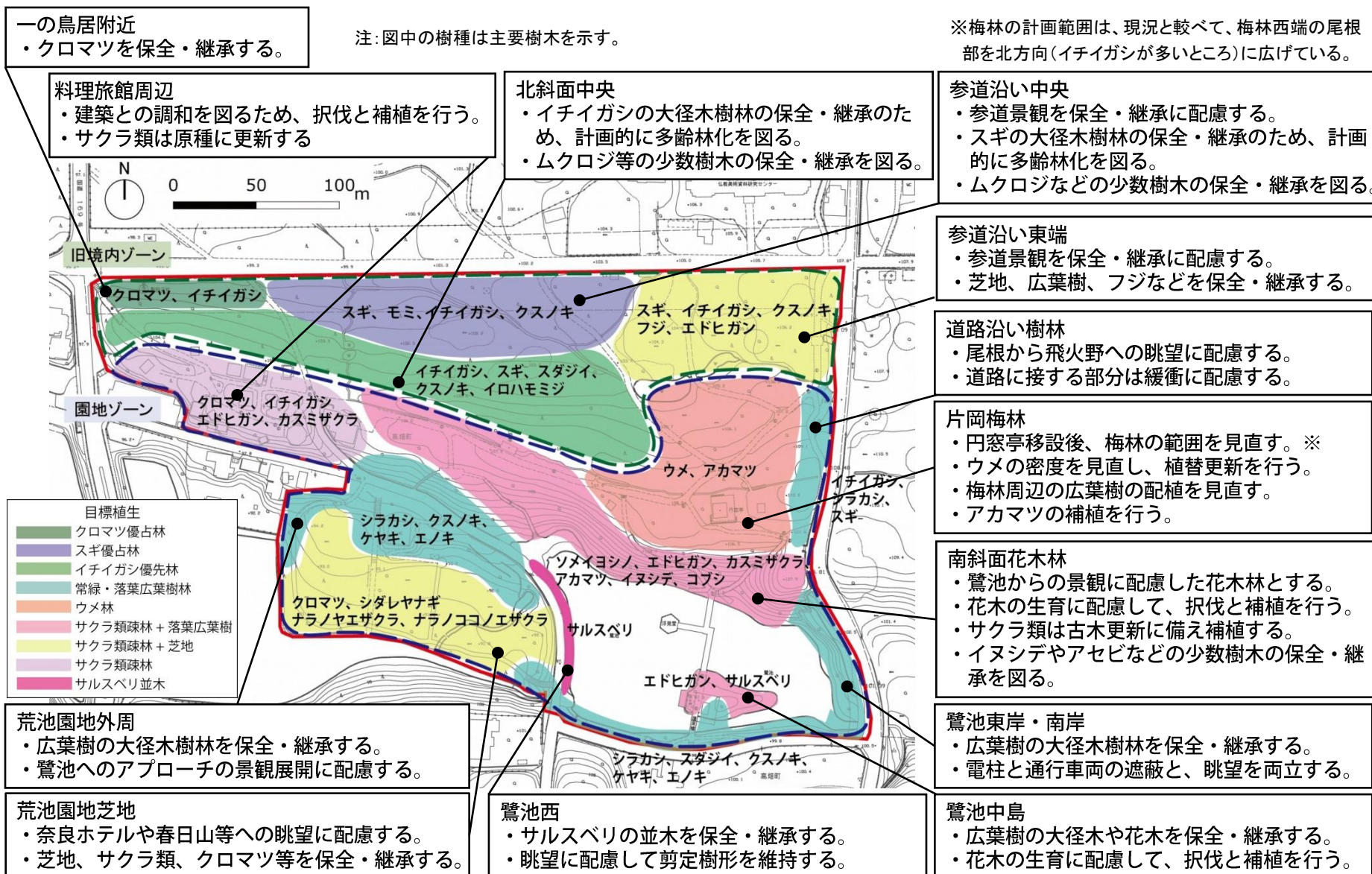


図：計画方針図

1. 上位計画と課題整理

(1) 植栽計画の概要－計画目標

第17回奈良公園植栽計画検討委員会資料より抽出



図：目標植生図

1. 上位計画と課題整理

(1) 植栽計画の概要－問題樹木

第17回奈良公園植栽計画検討委員会資料より抽出

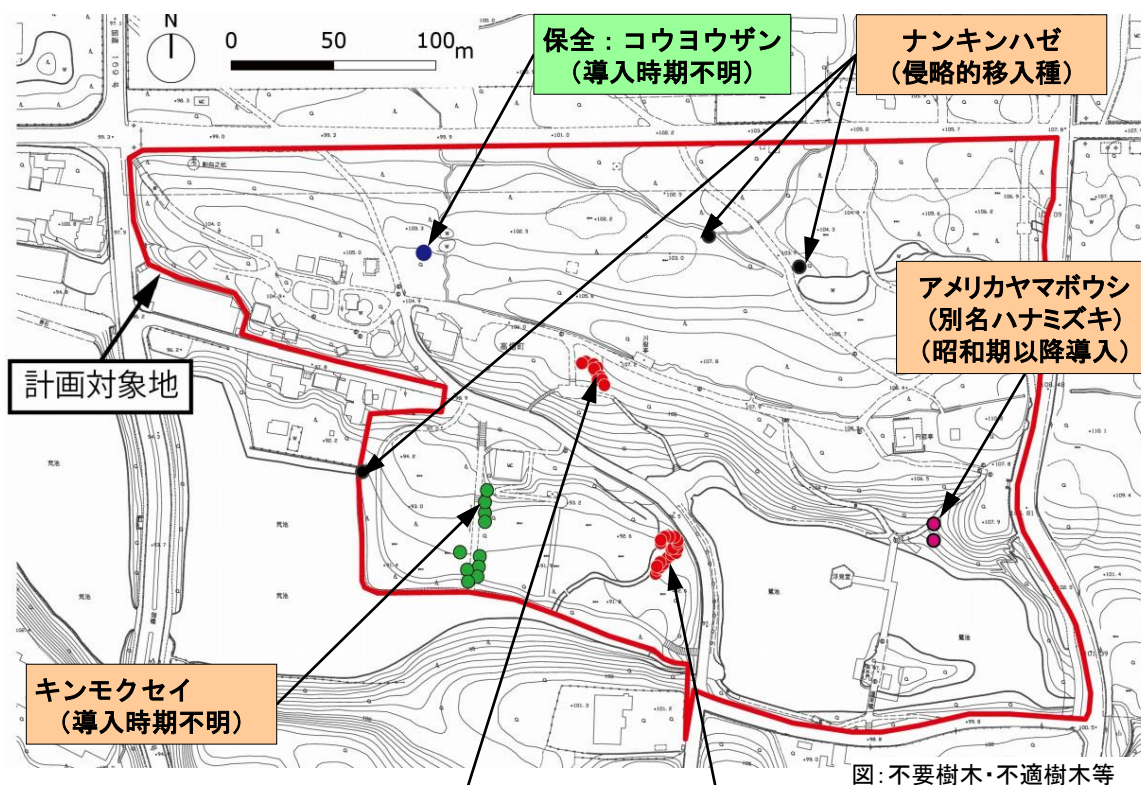
過剰密度の樹木：過剰な密植のイヌマキとカシ類の植栽は、択伐等の対処が必要である。

ナンキンハゼ：生態系に悪影響を及ぼす侵略的移入種(ナンキンハゼ)は、伐採する必要がある。

アメリカヤマボウシ(別名ハナミズキ)：「公園全体の植栽方針・方針－2」に適さないため、適切な機会に樹種変更する必要がある。

キンモクセイ：「公園全体の植栽方針・方針－2」に適さない可能性が高いため、適切な機会に樹種変更する必要がある。

コウヨウザン：「公園全体の植栽方針・方針－2」に適する可能性があるため、現位置のコウヨウザンは保全・継承することが望ましい。



キンモクセイの導入時期について

キンモクセイは、中国原産で、江戸時代に日本に渡来したという通説がある※。日本には雄株しかない。

奈良公園への導入時期に関する記録はない。奈良公園では、荒池園地、春日野園地、興福寺国宝館に植栽されているが、いずれも昭和期に整備されたところで、現存する樹木も古木ではないことから、奈良公園へのキンモクセイの導入時期は、昭和期以降である可能性が高いと考えられる。

※出典：山溪ハンディ図鑑「樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物」山と溪谷社

コウヨウザンの導入時期について

コウヨウザンは、中国原産で、日本への渡来時期は諸説あるが、近年は現存樹木の推定樹齢から江戸期以前に日本に渡来している可能性が指摘されている。

奈良公園への導入時期に関する記録はない。国内に現存するコウヨウザンの大木の多くは社寺境内に植栽されており、浅茅ヶ原が春日大社旧境内地であることから、コウヨウザンが植栽されていた可能性もあり、その場合には名勝指定以前に存在していたことも考えられる。

●コウヨウザンのそもそもと研究の現状(抜粋)

近藤禎二(国立研究開発法人森林総合研究所)
コウヨウザンは、中国・台湾原産のヒノキ科コウヨウザン属の常緑針葉樹でわが国には寺社を中心に江戸時代以前にも導入されている。
出典：国立研究開発法人森林総合研究所 林木遺伝資源連絡会誌 2016 No.1

●永泉寺のコウヨウザン

このコウヨウザンは、永正14年(1517年)に永泉寺(応仁2年(1468年)創立)三代目の住職。心操全忠大和尚が全国行脚の折、四国から持ち来たと植えたものといわれる。中国原産といわれるこの木が、関東より北部にあるのは唯一で、貴重な存在である。

樹高29.0m 幹周り5.50m 樹齢 500年

◇県指定天然記念物 ◇県指定緑の文化財 所在/須賀川市長沼

出典：福島県HP・平成28・29年度巨木調査結果

図：不要樹木・不適樹木等

イヌマキの密植 －択伐等

過剰に密植されたイヌマキは択抜や配植の見直しが必要。



カシ類他の密植 －択伐等

湧水外周に密植されたカシ類等は、択抜や配植の見直しが必要。



1. 上位計画と課題整理

(1) 植栽計画の概要－「名勝指定以降に導入された樹種」の取り扱い(案)

第17回奈良公園植栽計画検討委員会資料より抽出

方針－2

植栽樹種は、幽邃閑雅で表現される格調高い奈良公園の自然環境を育ててきた古来の樹種に限定する。

植栽樹種についての考え方は、明治期から近年まで幾つか見られ、それぞれ表現は異なるものの基本的な考え方は変わっていない。その中でも、奈良公園整備研究委員会の提言(1978)を踏まえて検討された「奈良公園の保全と将来構想」(1980)に記述された考え方は、これまでの多様な考え方を包含する内容であり、適切なものと考えられる。方針-2で規定される「古来の樹種」には、この地域に生育する郷土種(アカマツ、スギ、モミ、イチイガシなど)のほか、歴史文化的な経緯から古い時代に奈良公園に持ち込まれた樹種(クロマツ、スダジイ、クスノキ、ウメ、サルスベリなど)も含まれるものと考えられる。

参考資料

■奈良公園の保全と将来構想(1980) 出典:奈良公園史522頁

公園平坦部への植栽樹種は、幽邃閑雅で表現される格調高い奈良公園の自然環境を育ててきた古来の樹種に限定し、概ね次のとおりとする。

針葉樹	クロマツ、アカマツ、スギ、ヒノキ
常緑広葉樹	カシ類、シイ類、クス、ツバキ
落葉広葉樹	サクラ類、カエデ類、ウメ、シデ類、フジ、サルスベリ
低木	アセビ

注:上記の樹種は、奈良公園整備研究委員会提言集(1978)の四手井綱英、森蘊、保田與重郎等の提言をまとめたと考えられる。

方針－3

ナンキンハゼは自然環境の保全に支障を来す恐れのあることから、原則として駆除する。但し、以下のものについては、植栽管理等により自然増殖を抑制する場合に限り、例外として駆除対象外とする。

- 例外を認めるもの
- ① 奈良公園の景観の一部として欠かせないもの。
- ② 公園の植栽として歴史的価値のあるもの。

「古来の樹種」の考え方(案)

奈良公園は、明治13年の公園開設後、公園開設以前からあった樹木を保護しつつ(※1)、新たな樹木を加える植栽整備が行われた(※2)結果、景観としての美しさが評価され安定してきたことから、大正11年に名勝指定を受けたと考えられる。このことから、方針-2で示された「古来の樹種」にあたる樹種は、名勝指定時点において奈良公園内に存在していたと考えられる。

よって、奈良公園植栽計画では、「古来の樹種」は各種資料等から名勝指定時点において存在していたことが確認できる樹種とする。

●名勝指定時点の存在が確認可能な樹種の例

- ※1 春日山原始林植生調査の出現種(ナンキンハゼ等の移入種除く)
- ※1 天然記念物に指定された樹木や名木の樹種
- ※1,2 樹齢から明治期の存在が確認できる樹種
- ※2 明治期の文献・整備記録に記載され、現在も同範囲に現存する樹種

●名勝指定時点での存在が確認できない移入種について

これについては、奈良公園内の分布、植栽地の整備時期、植栽形態、樹木規格等から名勝指定時点の状況を推察したうえで、当該樹種の景観形成上の役割や奈良公園の景観イメージとの調和等を勘案して、個別に対応を検討する。

「名勝指定以降に導入された樹種」の現存樹木の取り扱い(案)

●自然環境や景観の保全への影響が少ない樹木

当該樹木が、衰退・枯死した時、病虫害・風害を受けた時、隣接地で工事等が発生した時などの機会にあわせて樹種変更する。

●自然環境や景観の保全への影響が大きい樹木

できるだけ速やかに伐採除去や樹種変更を行う。

(ナンキンハゼについては、別途に方針-3を設定している)

1. 上位計画と課題整理

(1) 植栽計画の概要 ー参考資料: 奈良公園への導入時期が不明な樹種

	コウヨウザン	キンモクセイ	アメリカヤマボウシ
原産地	中国、台湾	中国	北アメリカ
日本への移入時期	わが国には寺社を中心に江戸時代以前にも導入されている。 出典: コウヨウザンのそもそもと研究の現状(抜粋), 近藤禎二(国立研究開発法人森林総合研究所), 国立研究開発法人森林総合研究所 林木遺伝資源連絡会誌 2016 No.1	江戸時代に日本に渡来したという通説がある。 出典: 山溪ハンディ図鑑「樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物」山と溪谷社	日本に導入されたのは、1915年(大正4年)。 出典: 研究紹介 祝! ハナミズキ来日100周年 池田博(本館准教授/植物分類学), 東京大学総合研究博物館HP
日本での来歴・記録等	●永泉寺のコウヨウザン このコウヨウザンは、永正14年(1517年)に永泉寺(応仁2年(1468年)創立)三代目の住職。心操全忠大和尚が全国行脚の折、四国から持ち来たって植えたものといわれる。中国原産といわれるこの木が、関東より北部にあるのは唯一で、貴重な存在である。 樹高29.0m 幹周り5.50m 樹齢 500年 ◇県指定天然記念物 ◇県指定緑の文化財 所在/須賀川市長沼 出典: 福島県HP・平成28・29年度巨木調査結果	・日本には雄株しかない。 ・主に庭木や街路樹として観賞用に植えられている。	日本に導入されたのは、1915年(大正4年)のことで、当時東京市長の尾崎行雄がアメリカ・ワシントンD.C.に桜の苗を送ったことに対するお礼として送られたものとされる。その時にはハナミズキの苗40本が東京市に送られ、日比谷公園や新宿御苑など各地に植栽され、小石川植物園(現在の東京大学大学院理学系研究科附属植物園)にも数本が植えられた。 出典: 同上
奈良公園内の植栽記録	奈良公園では浅茅ヶ原(青葉茶屋の北)に胸高直径30cmほどの高木が1本だけある。 出典: 奈良公園の植物, 北川尚史(2004), 184頁	なし	なし
奈良公園内の現存箇所	浅茅ヶ原(青葉茶屋の北)の1本のみ。 2017年調査時 樹高9m, 幹周約90cm	荒池園地、春日野園地、興福寺国宝館に植栽されている。いずれも昭和期に整備されたところで、現存する樹木も古木ではない。	浅茅ヶ原(鷺池北側斜面地)と東大寺南大門南の三社池との間に、各数本植栽されている。共に若木である。
考え方	・奈良公園に導入された時期は分からない。 ・他の事例では古い時代に社寺に植栽され例が多く、奈良公園に現存するコウヨウザンの位置が春日大社旧境内であることから、名勝指定以前に植栽されていたことも考えられる。 ・現存するコウヨウザンは本計画地の1本のみで、公園利用上、景観上の問題は無い。	・奈良公園に導入された時期は分からない。 ・現存するキンモクセイは、位置や樹木の大きさから、昭和期以降であると考えられる。 ・現存するキンモクセイの状況からは、名勝指定時点で奈良公園に導入されていた可能性は小さい。 ・荒池園地のキンモクセイは、昭和42年の新規開園時に植栽されており、一部景観上問題がある	・苗木が日本に導入された時期が大正4年であり、その後の栽培繁殖によって日本各地に植栽されるには少なくとも10年以上必要と考えられることから、奈良公園に導入された時期は昭和期以降と考えられる。 ・本計画地内に現存するアメリカヤマボウシは、公園利用上、景観上の問題は無い。
本計画での対応方針	「公園全体の植栽方針・方針-2」に適する可能性があるため、現位置のコウヨウザンは保全・継承することが望ましい。	「公園全体の植栽方針・方針-2」に適さない可能性が高い。よって、荒池園地のキンモクセイは、問題のある樹木を除去し、残りは適切な機会に樹種変更する必要がある。	「公園全体の植栽方針・方針-2」に適さないため、奈良公園内のアメリカヤマボウシは、適切な機会に樹種変更する必要がある。

1. 上位計画と課題整理

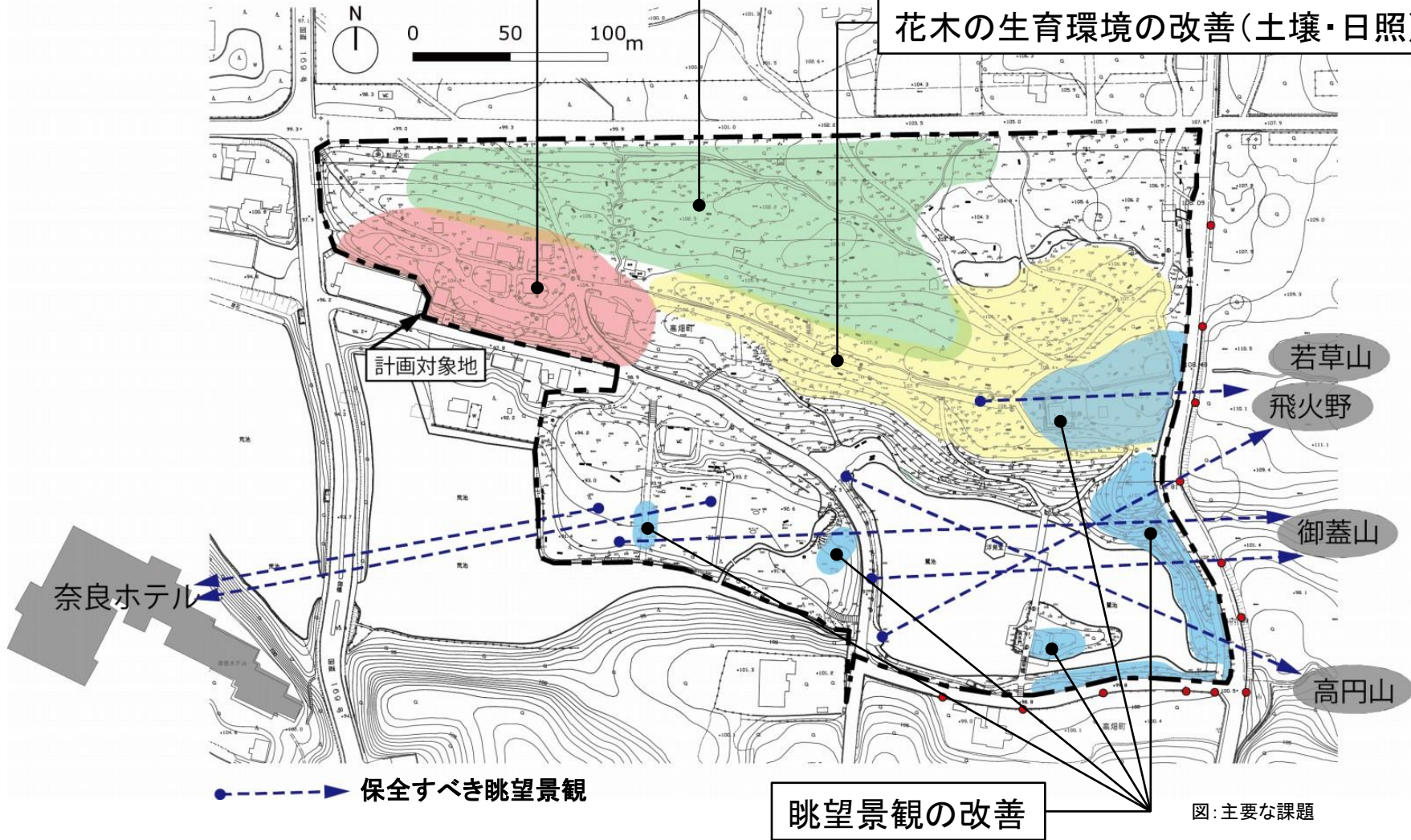
(2) 課題の整理

植栽計画の計画方針から導かれる主要な課題は、下図のとおりである。

建築物周辺の配植の見直し

スギ・イチイガシの多齢林化

花木の生育環境の改善(土壌・日照)



計画対象地

奈良ホテル

若草山

飛火野

御蓋山

高円山

● - - - -> 保全すべき眺望景観

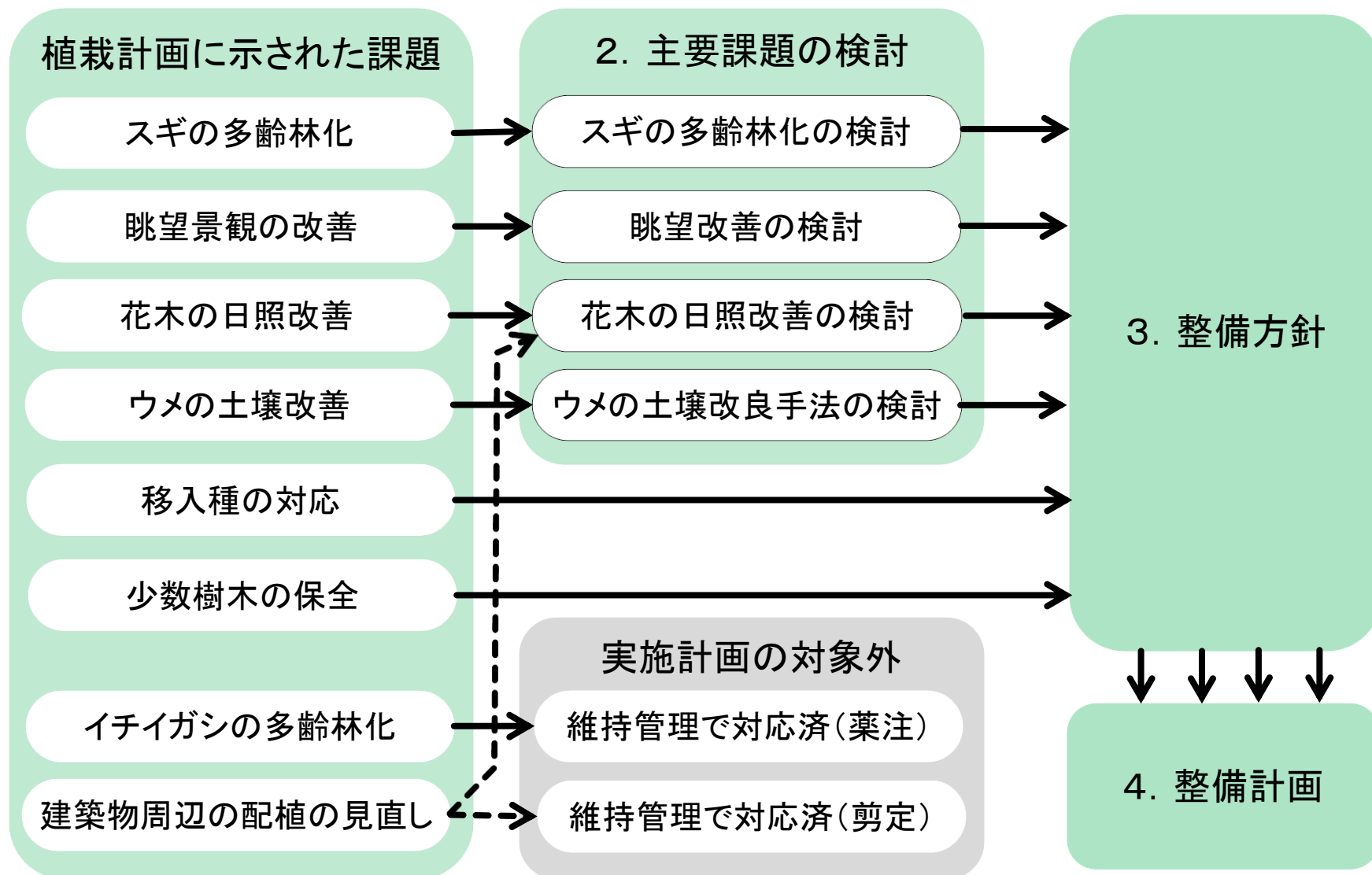
眺望景観の改善

図: 主要な課題

1. 上位計画と課題整理

(2) 課題の整理

植栽計画に示された課題は、下図のとおり検討を進めた。



図：計画課題の検討フロー